

大学生の進路意思決定遅延研究から

若松養亮 (滋賀大学教育学部)

1

はじめに

- 研究テーマは大学生の進路未決定  
Osipow, S. H. らを中心に米国で発展
- 意思決定の遅れの背景要因や実情を  
遅延者の理解や支援、予防に
- 対象は文科系中心の学部生3年生380名  
調査時期は2003年1月  
調査時点での未決定を「遅延」と見なす

2

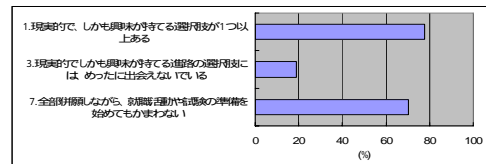
定義や尺度

- 「決定者」の定義  
「もう迷わず、これ以上具体的に詰めるつもりがない」選択肢を1つ以上有する人  
380人中、176名(46.3%)が遅延者
- 主な尺度  
Gati et al. (1996)によるC.D.D.Q.から改変  
未決定者の「状態」を記述する項目  
有する具体的な「困難さ」を測る項目

3

遅延者が置かれている状態(1)

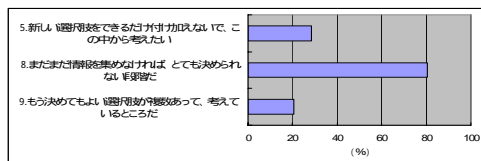
- 彼らはどんな状態でとどまっているか?
- 遅延者を対象に11項目×2件法で尋ねた
- 7割が興味と現実性がある選択肢をもつ



4

遅延者が置かれている状態(2)

- 「このなかから考えたい」は3割に満たない
- 「まだまだ情報を集めなければ」も8割

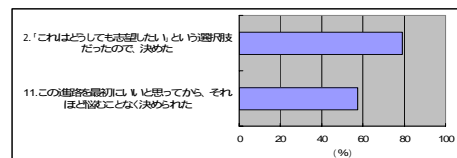


選択肢はありながらフィット感が不十分

5

決定者はなぜ決められたのか(1)

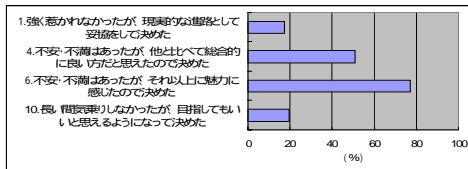
- 反面、決められた人がいるのはなぜか
- 決定者を対象に11項目×2件法で尋ねた
- 8割が「どうしても」という進路に決めた



6

## 決定者はなぜ決められたのか(2)

- 妥協して決めた人は少数
- 有する不安・不満以上の魅力で決意



強く惹かれる選択肢に出会えるかがカギ?

7

## 遅延者の探索行動を探る

- より良い選択肢がないなら探索行動が必要
- 13項目に5件法で評定させた

Stumpf et al. (1983) の C.E.S を改変したもの

- 因子分析による類型化

.内省的 例) どういう人間かをじっくり考えてみた

.情報収集

例) 特定の職務や会社について情報を手に入れた

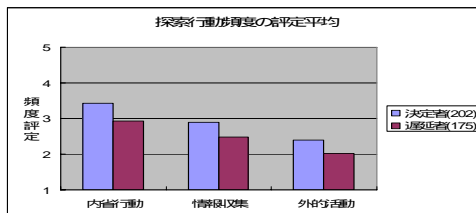
.外的活動

例) ある役割を好きになれるか試しについてみた

8

## 遅延者は探索行動をしているか

- 全因子で遅延者は決定者より頻度小
- 評定3を越えるのは内省的な行動のみ



9

## 遅延者の困難さに着目する

- 彼らが有する困難さから阻害の様相を知る
- 具体的な困難さを40項目×6件法で
- 8つの因子に類型化

決定者には決定前を回想して評定させる

.能力に関する戸惑い

.適合へのこだわり

.選択方法の迷い

.実現可能性の不安

.興味等の模索

.実情への不安

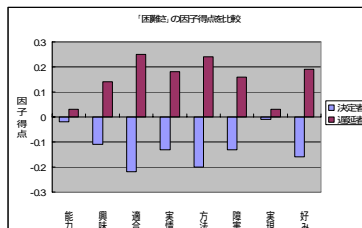
.現実的な障害

.好みに関する懸念

10

## 決定を阻害している困難さとは

- 決定or遅延で大きく異なる「適合」と「方法」
- 両群で差がない「能力」と「実現」



11

## 遅延者は一枚岩か

- 遅延者の類型化変数として重要なもの2つ  
indecisiveness

強い不安と領域を問わない優柔不断さ

困難さに悩む程度と交絡するので略

快適さ (comfort; Jones & Chenery, 1980)

遅延者では現状の評価的感情、危機感と関連

決定者でも意思決定の満足や確信と関わる

12

## 「快適さ」を測定する

- C.D.P. (Jones, 1989)を改変した3項目  
これと関連する困難さを重回帰分析で  
私は卒業後の進路について今まで考えてきた  
ことや決めてきたことに納得しており、すっきりし  
た気持ちでいられる  
私は卒業後の進路選択について心配していな  
い  
私は、卒業後の進路を考えたり決めたりするこ  
とに、とても苦労させられている(させられた)

13

## 「快適さ」と関連する困難さとは

- どんな困難さに悩まされると不快になるか  
快適さ評定を目的変数とした重回帰分析
- 遅延者は「実情」と「実現可能性」で有意  
(すっきりした気持ち)は「興味」と関連
- 決定者では  
(心配してない)は「方法」と「実現可能性」  
(苦労した)は「興味」と「方法」

14

## まとめ(1)遅延者の大勢は...

1. 選択肢はあるが、フィット感を持たず...
2. フィット感 快適さ、と捉えると  
興味、実情、実現可能性がカギか
3. 探索行動は内省的なものが中心  
情報収集や外的な活動に至らない  
狭い選択肢と少ない情報にもかかわらず、  
動き出せない。非生産的な意思決定行動。

15

## まとめ(2) 決定者の大勢は...

1. (たまたま)強く惹かれる選択肢に出会い、
2. 不安や不満を凌駕する魅力で決定へ  
考え方や決め方にあまり困らない  
フィット感も十分感じている
3. 興味が明瞭でない人は、苦労することに  
興味と合う選択肢と出会うことがカギ  
その他の点は吟味せずに決めていくフシ

16

## 終わりに...宣伝

教育心理学会にて自主シンポジウム

就職と自己 - 「自己分析」という迷宮 -

企画者: 若松養亮・下村英雄  
話題提供者: 下村英雄・山田剛史(京都大学)  
指定討論者: 佐藤有耕(筑波大学)  
上瀬由美子(江戸川大学)

日時: 2005年9月18日(日) AM9:30 ~ 12:00  
場所: 浅井学園大学 734教室

17